

楽天イーグルスのグッズ製作

■楽天の試合観戦



実際に試合を観たことで刺激を受け、次々とアイデアが生まれました

■48時間デザインマラソン



デザイナーとアイデアを練り上げ、プレゼンテーションにも参加しました

■グッズの一例 (イメージ)



完成したグッズは、2月上旬から楽天イーグルスグッズショップなどで販売予定。詳しくはホームページ<http://soup.ableart.org/>をご覧くださいか、お問い合わせください

本人の「力」を生かして仕事や社会参加につなげる「SHIRO Lab.」

障害のある方の芸術文化等による自己表現活動をサポートするNPO法人エイブル・アート・ジャパンでは、障害のある方と地元デザイナーがチームを組んで商品を開発する企画「SHIRO Lab.」を実施しています。4月から市の市民協働事業として、(株)楽天野球団の協力の下、東北楽天ゴールデンイーグルスの応援グッズの製作を進めてきました。

企画を担当する武田和恵さんは「障害のある方がより自分らしく働ける仕事をつくる」とともに、地元デザイナーなど福祉の世界以外の方たちとの出会いの場にもしたいと考えています」と狙いを教えてください。

今回参加したのは、障害のある個人や福祉事業所とデザイナー合わせて28人。商品の開発に当たり、参加者は7月27日に楽天イーグルスの試合を観戦し、8月1日・2日には「48時間デザインマラソン」と題して集中的にデザイン製作に取り組みました。「斬新なアイデアがたくさん生まれ、デザイナーにとっても新しい価値観を得る機会になったと思います」と武田さん。チームとして参加した福祉事業所「はまゆう」の支援員・渡邊駿さんは「参加者がすごく生き生きしていたのが印象的でした。自分の好きなことを通しているいろいろな方と出会い、作品が商品になることで、本人のやりがいにもつながっているようです」と話します。

武田さんは「今後も福祉の枠にとどまらずに、障害のある方が活躍する場を広げていきたいです」と意気込みを語ってくれました。



エイブル・アート・ジャパン東北事務局の武田さん



一人一人の「障害理解」で進む障害のある方の社会参加



パラリンピック競技などを体験できる「パラスポ仙台」

2020年の東京パラリンピック開催を機に、さまざまな障害者スポーツを体験するイベント「パラスポ仙台」を開催しています。11月11日には、サンモール一番町商店街を会場に、車いすダンスとボッチャの体験会を行いました。

車いすダンスでは、宮城県車いすダンス協会の皆さんが音楽に合わせて踊りを披露し、注目を集めていました。

ボッチャは、パラリンピックの正式種目にもなっている競技で、目標球を目掛けてボールを投げ、その距離の近さを競います。この日は通り掛かった親子連れや学生がボッチャを体験。「シンプルだけど熱くなる」「学校でもできそう」と、障害の有無や年齢を問わず競技に夢中になっていました。



●「パラスポ仙台」の12月の開催情報は、20ページをご覧ください

誰でも一緒に楽しめるのが魅力です



宮城県車いすダンス協会
岡野真佐子さんのお話

元々社交ダンスをしていましたが、交通事故により車いすでの生活になり、車いすダンスを始めました。

車いすダンスの魅力は、健常者と一緒に行うことができること。年に一度行われる大会を目標に日々活動をしており、生きがいにつながっています。近年は競技人口も増え、競技を通してさまざまな人と出会う機会にもなっています。

パラスポ仙台のようなイベントをきっかけに、もっと多くの人に障害者スポーツを知ってもらい、一緒に楽しめたらいいですね。



共生社会の実現を目指して

市では、誰もが暮らしやすいまちをつくるため、障害のある人もない人も互いに人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を目指し、さまざまな施策を実施しています。市民一人一人が障害や障害のある方について理解し、偏見や差別を無くす「心のバリアフリー」を進めることが、共生社会の実現の第一歩となります。

平成28年4月、「障害者差別解消法」が施行され、本市においても「仙台市障害を理由とする差別をなくし障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例」を施行しました。しかし、本市の調査では、これらの法律・条例についての市民の認知度が約17%と低い状況にあります。また、県内の一般企業における障害者雇用率が全国的に見て低いなど、障害に関する理解が社会に浸透しているとはいえない状況です。

誰もが生きがいを持って社会参加できるような、障害への理解を広める取り組みが求められています。2020年に東京でパラリンピックが開催されるのを契機に、本市でもスポーツや芸術文化活動を通じた障害理解の促進に努めていきます。

この特集に関するお問い合わせは、障害企画課 ☎214・8163、FAX223・3573、「SHIRO Lab.」については障害者支援課 ☎214・8164、FAX223・3573